



※農薬の使用はラベルの記載に従ってください。



見分けが難しい病気～葉かび病・すすかび病～

【葉かび病(*Passalora fulva*)】



葉の表面に不鮮明な淡黄色小斑点を生じ、裏面に灰黄色～緑褐色のピロド状のカビを密生する。被害が拡大すると、カビは灰褐色から灰紫色に変化し、表面にもカビを生じる。下位葉から上位葉に蔓延し、枯死する。

前作の被害作物残渣、種子、資材に付着して越冬する。発生適温は20～25℃。

【すすかび病(*Pseudocercospora fuligena*)】



葉裏に不明瞭な淡黄緑色の病斑を形成し、灰褐色粉状のカビを生じる。病斑は円形または葉脈に囲まれた不整形になり、黒褐色に変わる。葉表にも同様の淡黄褐色の病斑を生じ、葉裏よりも少ないがカビを生じる。葉かび病やLeveillula属菌によるうどんこ病に症状が類似しており、判別は困難。病原菌は被害植物の残渣上で生存する。

症状の特徴だけでは、
似ている病気が多くて判断できない…
何の薬剤を散布したらいいのかな…？



イノチオHDでは病害虫診断を行っています！

顕微鏡や検査キットを用いて、原因となる病原菌や害虫、ウイルスを検査します。迅速・的確な診断で、適した農薬や対策をご提案いたします。見分けが難しいものや、早急な対応が必要な病害虫も多く存在します。誤った防除を行い、被害をが広がる前に、一度診断を受けてみてはいかがでしょうか？



詳細は各担当営業まで
お問い合わせください！



防除チラシ掲載農薬は年間の通し回数をカウントしていません！ご自身の散布履歴に合わせて薬剤を検討してください！



IRAC FRAC	対象病害虫	薬剤名	予防	治療	希釈倍数	使用時期	回数	影響日数	
								ミツバチ	マルハナ
M01	疫病・かいはう病・すすかび病・葉かび病	兼商クプロシールド	○	—	1000倍 (疫病:1000～2000倍)	発病前～ 発病初期	—	1日	
M10	うどんこ病・コナジラミ類・トマトサビダニ	パルミノ	—	—	2000倍	前日	5回	5日	1日 カマル
11	菌核病・すすかび病・立枯病・灰色かび病・葉かび病・斑点病	ファンタジスタ顆粒水和剤	○	○	2000～3000倍 (立枯病:2000倍)	前日	3回	0日	
6	コナジラミ類・ハダカバエ類・トマトサビダニ・オオハバコガ・トマトキバガ	アフーム乳剤	—	—	2000倍	前日	5回	2日	
7	うどんこ病・菌核病・すすかび病・灰色かび病・葉かび病	ケンジャフロアブル	○	—	1500倍	前日	3回	1日	
9B	アブラムシ類・コナジラミ類	チェス顆粒水和剤	—	—	5000倍	前日	3回	0日	
3	うどんこ病・すすかび病・葉かび病	トリフミン水和剤	○	○	3000倍 (葉かび病3000～5000倍)	前日	5回	0日	1日
4C	アブラムシ類・コナジラミ類・トマトサビダニ	トランスフォームフロアブル	—	—	1000～2000倍 (アブラムシ類:2000倍)	前日	2回	10日	2～5日

作物によって対象病害虫や希釈倍率が異なる場合があります。ラベルの確認をしてから使用してください。

新規殺虫剤

落ちる害虫、活きる益虫

エフィコン[®]SL

IRAC : 36



- ◆ 有効成分アクサリオンが害虫の行動を阻害
- ◆ 抵抗性害虫への優れた効果
- ◆ 有益昆虫に影響が少ない

トマト登録内容

コナジラミ類・トマトサビダニ など
1000倍 収穫前日まで 2回以内

酷暑に打ち克つ

ヒートインパクト



暑さに負けない“強さ”を引き出す

- ◆ 光合成機能の低下による収量減対策
- ◆ 果菜類の糖度・肥大不足に！

果菜類・葉菜類使用例

1000倍 100ml/10a
本葉展開後～収穫前 2～3回 葉面散布

